



新篠津小学校だより

発行：令和 7年 1月31日 No.13

<令和6年度の重点目標>

学び合い 伝え合い 高め合い

未来を創造する子どもの育成

未来を拓く

学校ホームページ (URL) <http://shinsho.ec-net.jp/index.html>



夢～あってもなくても君は君～

校長 保谷 剛

夢より大切なのは「チャレンジし続けること」

世の中には「夢」があふれています。

卒園式や卒業式では、園児や児童・生徒が「将来の夢」を語ります。宇宙工学の世界では、「人類の夢」を実現させるための研究・開発が日々行われています。

私も子どもたちに「大いなる夢を抱くとともに、夢の実現に向けたスモールステップを着実に上がってください」と語りかけたことがあります。しかし、やりたいことややりたいものがすぐには見つからずに生きている人も、世の中には大勢いることでしょう。

以前、通勤時に聴いていたラジオからは、毎日のように「今ある、様々な仕事。近い将来、そのおよそ49%をAIやロボットが担えるようになる、という予測がある」というCMが流れていました。その仕事に就きたくて毎日努力をしても、大人になった時にはAIがその仕事を全て担っていた、という事態に直面するかもしれません。そうすると「夢を持つ」とは軽々には言えません。

先日、日米の野球殿堂入りをした元プロ野球選手のイチローさん(オリックス・シアトル・マリナーズ他 現シアトル・マリナーズ会長付特別補佐兼インストラクター)は小学校の卒業文集で「365日中360日は激しい練習をやっています。(中略)そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います」と書き、人々から「小さなうちから明確な夢を持ち、努力を積み重ねたから夢が実現できたのだ」と称賛されていました。それも夢の一側面ではあると思いますが、小学生の頃の夢がそのまま将来の職業に直結した人は、世の中にそれほど多くはないのではないか、とも思います。

国内旅行や海外旅行(留学)を通じ、生涯続けたいものに出会ったという人もいます。また、人との出会いがきっかけとなり、自分の進路がはっきりと見えてきたという人もいます。学業や職業を続けている途中で、本当にやりたいことに気づき、進む道を変えた人もいます。大切なのは夢を持つか持たないかではなく、目の前にある「興味を持ったこと」に没頭し、自分を磨いていくことなのではないでしょうか。

先行きが不透明な時代を生きる新篠津小学校の皆さん。今、夢があってもなくても君は君です。その価値はいささかも変わりません。あれもやってみよう、これもやってみようと試行錯誤を繰り返しながら、自分磨きをしてみてください。タイムマシンがもしあったなら、将来の自分から「あの時チャレンジをし続けたから、今日の自分があるんだよ。ありがとう」と現在のあなたにメッセージが贈られることでしょう。

子どものチャレンジを後押しする学校・家庭・地域に

保護者、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。本校教育目標である「母校を愛し 郷土を愛し 未来を拓く子どもの育成」の実現に、今年も努めてまいります。3学期始業式では「『できた』を一つでも多く、これからも積み重ねていきましょう」と話をしました。子どもたち自身が目を輝かせて様々なことにチャレンジしていけるよう、学校として鋭意努力いたします。ご家庭・地域の皆様におかれましても、温かい励ましと、成長を支えるためのご協力をお願いいたします。

